

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

東京都の事業への協力

会員の皆様には日頃より士会活動へのご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。このニュースが皆様のお手元に届く時期は5月中旬になるとと思いますので、新年度の環境にも慣れた頃ではないかと推察いたします。

年度替わりですので、昨年度事業の総括と今年度の計画をお伝えする必要がありますが、詳細は総会議案書をご覧くださいとしまして、ここでは昨年度東京都の二つの部局の事業に協力したことを、お伝えしようと思います。

一つ目は、福祉局障害者施策推進部施設サービス支援課の障害者支援施設等におけるリハビリテーション職員（以下、リハ職）配置促進事業のためのPR動画制作です。リハ職配置ですので、都PT協会、都ST士会も同様の協力依頼がきたもので、撮影は動画制作会社が請け負ったのですが、脚本はそれぞれの会に任せられました。

この脚本を書くために障害者支援施設の現状を知る必要を感じ、9か所の入所施設を見学し、そのうちOTが配置されていた4施設の方々の協力を得て、施設内で取り組んでいる様々な作業の紹介を中心に動画を完成させました。

リハ職配置の現状は、PT、OT各1名 非常勤ST1名が最充実レベルで、同職種が複数いる施設は大変稀であること、またOTの募集をかけても応募がないことなどが分かりました。東京都がリハ職配置促進を考えてくれていることは有難いのですが、配置する施設側への財政的支援が必要と思われることを、都の担当者に伝えました。

二つ目は、東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部のeパラスポーツ事業への協力です。内容

は障害者支援施設でのeパラスポーツ大会実施に向けて、利用者が必要とするコントローラーの適合支援でした。この対応は都士会スポーツ支援委員会が実施しました。詳細は東京作業療法12巻2024に書きましたのでご一読頂くとして、この話が都士会に来ることについてお伝えしようと思います。

東京都は、この事業を実施するため障害者へのeスポーツ実施情報を全国から収集したのですが、収集された側から「東京都がこのような事業を実施するようだ」という情報が、前々年度からこちらに入っていました。また事業実施の際の協力は、PTでなくOTに依頼するよう都の担当者に伝えてくれたことを知っていました。情報を入手していたことで、余裕を持って対応するための体制を構築できたという経緯があります。

これら二つの事業を通して、東京都の方々と関係構築が図れたことは、今後の都士会の発展に有用なことだと感じています。

今年度も「バーチャルスポーツ」事業への協力依頼がきており、実施に向けた打ち合わせを進めているところです。バーチャルスポーツ系の活動は、リハ職の中でOTが担っていけるよう人材育成を図るべきだと感じていますので、興味・関心がある方は、お手伝下さると有難いです。

最後に、今年度は都士会役員選挙があり6月の総会後は、新たな体制で事業を展開することになりますが、皆様には変わらず士会活動へのご支援・ご協力をお願いいたします。



会長 田中勇次郎

CONTENTS

- ◆ 東京都の事業への協力…①
- ◆ 第20回東京都作業療法学会 参加のご案内…②
- ◆ 生涯教育制度について…③
- ◆ 事業部活動報告と計画…④
- ◆ 子ども委員会ニュース…⑤
- ◆ 保険部 Letter 令和6年度介護報酬改定の概要…⑤
- ◆ 認知症のひとと家族の生活支援委員会の今年度の計画…⑥
- ◆ 認知症にやさしい本の紹介 VOL.44…⑥
- ◆ 2024年度地域づくり共創部企画研修のご案内…⑦
- ◆ こどものための福祉機器展に出展します!…⑦
- ◆ How to 自動車運転支援?～自動車運転支援チームの立ち上げ/施設間の連携…⑧
- ◆ 就労支援委員会 2023年度の活動報告、および2024年度の事業計画について…⑧
- ◆ 都士会の災害リハ支援～令和6年能登半島地震におけるLスタッフの活動について…⑨
- ◆ ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆ OTO号外発行のお知らせ e-スポーツ特集のこぼれ話～本当はこぼしたくなかった話…⑫

第20回東京都作業療法学会 参加のご案内

イムス板橋リハビリテーション病院 松澤 良平

青葉若葉を渡る風に夏の気配を感じるこの頃、ご壮健にてお過ごしのことと存じます。私のこの季節の作業として、10代の頃、静岡の茶農家だった祖父母の手伝いを一家で行っていたことを思い出します。さて、今回は学会をお楽しみいただけるよう会場案内と演題発表、公募企画、企業・団体の展示を紹介します。

まず会場ですが、すでにお伝えしている通り帝京平成大学池袋キャンパスで開催いたします。メインとなるのは4階です。4階では、講演、演題発表、公募企画を催します。準備を進める中で、1フロアに収まらなくなり、3階の食堂も使用することになりました。こちらでは、企業・団体を募集し、機器展示や販売を予定しています。また、参加者の皆様が交流し、休憩できるスペースとなる予定です。

演題発表ですが、申し込み総数は59演題と予想を大きく上回る演題数となりました。領域としては、身体、精神、老年期、小児と多彩で、さらに病期も急性期～終末期まで幅広く、関与場面としては、病院～地域生活まであり、作業療法士の教育に関する演題もあります。口述発表は2会場、ポスター発表はオープンスペースに掲示していただく予定です。

次に、公募企画ですが、10テーマをお申し込みいただきました。基本的には、2会場で各企画は1時間毎です。この会場では、8テーマが開催され、グループワークやシンポジウム形式で行われます。2テーマは、体験型の形式となっており、1つは3階の食堂を使用する予定で、もう1つは会場を飛び出して近隣の場所で行う予定であると伺っています。お時間の許す限り公募企画にも足をお運びください。

そして、企業・団体の展示および販売についてです。私のたっでの希望で、会場係に難題を押し付けて進めています。お声がけする企業・団体は、東京都作業療法士会の賛助会員を始め、その他、書店、出版社、福祉機器、一般企業、福祉園、就労支援事業所などとなっています。現在、準備を進めている段階のため、実際に来てくださるか、どのぐらいの企業・団体が集まってくるか不明ですが、参加者の皆様が楽しみ、学会の次の日からの仕事に活かせるような空間を作りたいと思っています。

最後に参加費のご案内です。東京都作業療法士会員で事前登録は3000円、当日参加は4000円（現地参加+アーカイブ配信）を予定しています。事前参加登録期間は、5月1日～7月13日23時59分までとなっていますので、事前参加登録がお得です！また、他職種及び他県の作業療法士会の方も参加いただけます。事前参加登録は5000円、当日参加は6000円（現地参加+アーカイブ配信）を予定していますので、お知り合いをお誘い合わせの上ご参加ください。なお、作業療法士1年目の方、学生、当事者、医療従事者以外の方は無料となっています。無料の場合でも、システムからの登録をよろしくお願ひします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



web サイトはこちら

生涯教育制度について

東京都作業療法士会教育部 部長 菊池 大典

日本作業療法士協会では作業療法士の学術的研鑽を支援するために、生涯教育制度を設定しています。本制度は基礎研修制度、認定作業療法士制度、専門作業療法士制度に分けられ、本稿では新人作業療法士が最初に取り組むことになる、基礎研修制度について解説します。

基礎研修制度は「現職者研修」と「自由選択研修」から成ります。現職者研修はさらに、共通研修と選択研修に分けられ、具体的には「現職者共通研修」「現職者選択研修（身体障害領域、精神障害領域、老年期領域、発達障害領域、MTDLP）」として開催されます。また、2020年度から「臨床実習指導者講習会」が基礎研修終了後の初回更新時まで受講が必須となる更新必修研修として位置づけられております。各研修会について、開催が決まりましたらホームページ等でご案内致します。

現職者共通研修は全10講座（各90分）で構成され、具体的な内訳は座学となる8講座と、発表とグループディスカッションの2講座となっています。事例報告の講座はクライアントからの同意と、その証左である同意書の提出が必須となっておりますので、詳細は募集時の要項をご確認下さい。全科目の受講により修了となり、基礎研修ポイント（20ポイント）が付与されます。

現職者選択研修は必修講座であるMTDLPに加え、任意の1講座（身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害）を受講することで修了となります。各会員が従事している領域の講座を受講する場合がありますが、他領域の知見や最新の動向を学ぶ観点から、2講座以上の受講も推奨しております。現職者選択研修は土曜日及び日曜日の開催で、各講座いずれも4科目（各90分）で構成されています。1講座を受講する度に、基礎研修ポイント（2ポイント）が付与されます。

現職者研修シリーズは東京都作業療法士会が日本作業療法士協会からの委託を受けて、開催する形式となります。受講における要件等については、日本作業療法士協会の規則に準ずることになります。この生涯教育制度は、2025年度に大幅改定が予定されています。現在、基礎研修制度の修了が目前の方におかれましては、2024年度中に修了されることを推奨いたします。

自由選択研修は東京都作業療法士会教育部の裁量によって、内容を自由に設定できる研修となっております。2023年度は身体障害領域における急性期～生活期における高次脳機能障害事例の報告、精神障害領域におけるアルコール依存症支援、老年期領域における高齢期・地域におけるリスク管理、発達障害領域における医療的ケア児への支援に関する研修会を開催しました。本研修も基礎ポイント（2ポイント）が付与されますが、選択研修とは異なり受講は任意となっております。しかしながら、自己研鑽や、50ポイントの蓄積の為に、積極的な受講をお願いします。

上記の研修は、いずれも東京都作業療法士会教育部が企画と運営を行っております。2024年度もZoomによる遠隔形式での開催を基本としつつ、対面形式による開催を検討します。研修会へのご参加を、お待ちしております。

現職者選択研修：老年期領域

開催日時：2024年7月21日（日）9：00～16：30 Zoomでの開催

申し込み：都士会HPまたは下記QRコードよりお申し込みください。



現職者共通研修：事例検討・事例報告

開催日時：2024年6月19日（水）19：00～20：30 Zoomでの開催

申し込み：都士会HPまたは下記QRコードよりお申し込みください。



MTDLP基礎研修

日時：2024年8月25日（日）9：30～17：30予定

申込開始日：2024年6月1日～

場所：ZOOM開催

対象：日本作業療法士協会員及び東京都作業療法士会員優先

会費：4000円



日時：2025年3月2日（日）9：30～17：30予定

申込開始日：2024年12月1日～

場所：ZOOM開催

対象：日本作業療法士協会員及び東京都作業療法士会員優先

会費：4000円

詳細は都士会HPに
掲載予定です

事業部活動報告と計画

事業部 部長 大館 哲詩

新しい年度が始まりました。コロナ禍で縮小していた対面イベントも昨年度から少しずつ再開してきており、今年度はより一層増える予定です。新しい部員も増え、新しいアイデアや取り組みを通して都民への啓発や都士会員への福利厚生を充実させていきたいと思っています。直近のイベントですが5月18日に看護フェスタが東京都看護協会館にて開催予定で我々もブース出展をします。対面式イベントの再開に伴い、事業部では椅子カバーを新しく作成しました。ブースの待機用椅子などに設置する予定です。少しでも目を引くようなデザインをと、部員総出でアイデアを出しました。今後皆様にもご覧いただける機会がでてくると思いますので、デザインの感想などもぜひ教えてください。

さらに昨年度2月に開催し大変好評いただきました事業部主催研修「未来の安心を築くためのはじめての資産形成術～OT向け入門編：NISAとiDeCoの活用～」ですが、続編希望の声をたくさんいただきました。現在講師の塚越氏と7月5日に続編開催に向けて準備を進めております。この紙面がお手元に届く頃には都士会HPに情報を載せられると思いますのでチェックしてみてください。

他にも例年通りオープンキャンパス企画やOTの日企画なども進めていきます。事業部では一緒に啓発活動などを手伝ってくれる部員を大募集中です。興味のある方はぜひお問合せください。

子ども委員会ニュース

子ども委員会 上村 海斗

3月24日(日)に、東京都立小児総合医療センターにて「ヤングケアラーときょうだい支援」の研修会を開催いたしました。ヤングケアラーは作業療法士の仲田海人先生、きょうだい支援は増田京子先生にご登壇いただきました。

仲田先生の講演では、「ヤングケアラーの当事者としての実体験(学生から社会人にかけての体験談やその時の仲田先生の気持ちや行動)」と「ヤングケアラーの施策(取り組み、課題など)」についてお話いただきました。ご家族のケアが続くことで心身の健康(家庭内がピリピリし緊張している状況)や社会活動への参加(部活動や勉強の時間)が脅かされる可能性があるため、ごきょうだいをはじめ、ケアを行っている方々の心身状態や活動への参加状況についても確認していく必要があると感じました。

増田先生の講演では、「妹について」「兄弟姉妹の会の取り組み」についてお話いただきました。きょうだい会では茶話会や学習会などが開催されています。きょうだいに障がい児がいることによる悩みを同じ状況の仲間と共有してほしい・現在や将来の課題を乗り越えてほしいという願いが込められています。

仲田先生・増田先生にご講演をいただいた中で、お二方とも、「当事者の想いや価値観」を大切にされているように感じました。講義後の質疑応答も活発に行われ非常に有意義な時間となりました。

仲田先生・増田先生、研修会に参加してくださった方々に心より御礼申し上げます。

保険部 Letter 令和6年度介護報酬改定の概要

保険部担当理事 松岡 耕史

トリプル改定のうちOTが関わる介護報酬改定のご紹介です。詳細はQRコード(介護給付費分科会資料)等をご確認ください。



- 医療機関のリハビリテーション(リハ)計画書の受け取りの義務化(訪問リハ・通所リハ): リハ計画を作成するに当たっては、入院中に医療機関が作成したリハ実施計画書等を入手し、内容を把握することを義務付ける。
- 退院後早期のリハ実施に向けた退院時情報連携の推進(訪問リハ・通所リハ): リハ事業所のPT等が、医療機関の退院前カンファレンスに参加し、共同指導を行ったことを評価する新たな加算を設ける。
- 訪問・通所リハにおけるリハ、口腔、栄養の一体的取組の推進(訪問リハ・通所リハ): リハマネジメント加算について、新たな区分を設ける。
- 通所リハの事業所規模別基本報酬の見直し(通所リハ)
 - ア 通常規模型、大規模型(I)、(II)の3段階の事業所規模別の基本報酬を、通常規模型、大規模型の2段階に変更する。
 - イ 大規模型事業所のうち、以下の要件を全て満たす事業所については、通常規模型と同等の評価を行う。
 - i リハマネジメント加算の算定率が利用者全体の80%以上。
 - ii リハ専門職の配置が10:1以上。
- 通所リハにおける入浴介助加算(II)の見直し(通所リハ): 医師等に代わり介護職員が訪問し、医師等の指示の下、ICT機器を活用して状況把握を行い、医師等が評価・助言する場合も算定可能。
- 訪問リハにおける集中的な認知症リハの推進(訪問リハ): 認知症の方に対して、認知機能や生活環境等を踏まえ、応用的動作能力や社会適応能力を最大限に活かしながら、当該利用者の生活機能を改善するためのリハの実施を評価する加算を新設。
- 介護予防サービスにおけるリハの質の向上に向けた評価(介護予防訪問リハ・介護予防通所リハ)
 - ア 利用開始12月経過後の減算を拡大。ただし、LIFEヘデータを提出しPDCAサイクルを推進する場合は減算を行わない。
 - イ LIFEヘリハのデータ提出を推進するとともに、事業所評価加算の廃止を行う。
- 運動器機能向上加算の基本報酬への包括化(介護予防通所リハ)
 - ア 運動器機能向上加算を廃止し、基本報酬への包括化を行う。
 - イ 運動器機能向上加算・栄養改善加算・口腔機能向上加算のうち、選択的サービス複数実施加算について見直しを行う。
- PT等による訪問看護の評価の見直し(訪問看護): PT等の訪問における基本報酬及び12月を超えた場合の減算を見直す。

認知症の人と家族の 生活支援委員会の今年度の計画

認知症の人と家族の生活支援委員会 山下 高介
(日本リハビリテーション専門学校)

みなさま、こんにちは。認知症と家族の生活支援委員会（以下、当委員会）の山下と申します。新年度も始まり、早くも1ヶ月が過ぎました。みなさまの職場では、新入職員さんも少し業務に慣れてきたころでしょうか？

当委員会は、と言いますと、今年度も豊富な年度計画を遂行するため活発に動いております！！

まずは、毎年恒例の東京都作業療法学会への参加です。今回の東京都作業療法学会にも、当委員会として公募企画へ応募させていただきました。この記事の執筆中では、公募企画の選考段階であり、当委員会の企画が選ばれるかは不明ですが、もし当選した際は参加者のみなさまとの交流企画を開催したいと考えております。

そして、当委員会としてもう1つの大きな活動に東京新聞ヘルスケアメイツがあります。こちらは2022年度より参加させていただいております。2024年度より、本格的な事業としてスタートするため、これまでより開催頻度や内容もスケールアップされる予定です！その他、認知症アップデート研修等も引き続き頑張っていきますのでご期待ください！また、当委員会では活動に参加して下さる会員の方を募集しております。ご興味のある方は、ぜひQRコードより、委員会活動へ参加を希望してください！



認知症にやさしい本の紹介 VOL.44

川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

『本人と支援者が教える！

認知症になったあとも「ひとり暮らし・仕事」を続ける方法』

著/来島みのり・かもしたまこと

最近、私の主観であるが、医療従事者や福祉の専門職種の方、当事者家族が著者の本は数多く出版されているようにうかがえる。一方、当事者本人が筆者である体験記が少ないように感じていた。ところが、昨年12月にレビー小体型認知症の当事者と若年性認知症支援コーディネーターの両者が共著で、当事者も家族も読める本を見つけた。表紙の「ひとりで暮らし・仕事」に目を引かれた。本人も読み進められる工夫も文中に書いてある。本人とコーディネーターの視点で日常生活や仕事のことについて個々の具体的な事例紹介がとてもわかりやすく、多くの学びが得られた。診断後、「自立した日常生活」を継続するために著者の想いが伝わってくる。また、各ページに文字の大きさや行間の取り方も配慮されている。仕事がテーマの章は様々な工夫を若年性認知症支援コーディネーターの相談事例をもとに説明し、認知症でもいかに継続して仕事をしていくことができるのか参考になった。また、著者の当事者本人も認知症と診断されても働き続けているだけに、このようなケースの場合は・・・とコメントを交え対応策が提示されている。この本は本人の体験記でもあり、生活と就労への工夫や心構えを知ることができる一冊である。

※なお、著者の前者がコーディネーター、後者が認知症当事者本人である。

2024年度地域づくり共創部企画研修のご案内

地域づくり共創部部长 金澤 均

今年も地域づくり共創部ではさまざまな研修を企画しており、2024年度の研修スケジュールを紹介させていただきます。

まず昨年より実施しております地域づくり人材育成研修会は、今年も基礎編・実践基礎編・実践編を行っていく予定です。基礎編は従前通りオンラインでの配信を予定しており、今年度制度変更がありましたので一度研修内容の見直しを行う予定です。続く実践基礎編は10月に開催を検討しており、ご希望の多かったオンラインでのハイブリッド研修も含め、さまざまな形で参加できるような検討を進めたいと思います。また、今年はいよいよ実践編の研修が開始されます。まず4月20日土曜日に第1回地域づくり人材育成研修実践編を開催し、12月にも第2回実践編の開催を検討しています。また未定ではありますが、実践報告会（旧：Café&Bar企画）の開催も検討して行きたいと考えています。この機にぜひ地域づくり人材育成研修会へ参加し、東京都全地域に作業療法を届けていきましょう！

その他、地域づくり共創部は東京都作業療法学会での企画、7月27日には三士会東京都地域リハビリテーション専門人材育成研修の開催。秋以降にも三士会東京都地域リハビリテーションアドバンス研修会の開催も予定しています。ぜひ皆様ご参加いただければと思います。

今年度も地域づくり共創部の活動をよろしく願いいたします。

こどものための福祉機器展に出展します！

2024年7月6日（土）、7日（日）の2日間、八王子にある東京たま未来メッセで「こどものための福祉機器展」が開催される予定で、東京都作業療法士会として出展する準備をしています。この展示会は、多摩地域にある座位保持装置などの作製をしている工房が10年前に開催した小さな展示会が始まりで毎年開催され今年度も開催されます。東京では毎年4月にキッズフェスタがありますが、多摩地域からだアクセスが不便というユーザーの要望が多く、この展示会が発展したという経緯があるそうです。詳しくはQRコードより主催者のホームページをご覧ください。



この度は主催者側からお声掛けしていただき東京都作業療法士会として出展することになりました。現在、こども委員会、スポーツ委員会、事業部、福祉用具部のメンバーでプロジェクトチームを立ち上げ準備を進めております。展示ブースでは各種相談の受付や、座位保持装置や体に合った椅子に座ったその先「座れてどうするか？」に焦点をあてようと思います。例えば日常生活や遊びの拡がりなどを、姿勢とセットで考えて、姿勢が安定することで手が動きやすくなることに気づく場に使いたいです。手を動かす目的として、玩具・スイッチ・ゲーム・コミュニケーション機器などが体験できればと考えております。ご興味がある皆さま、是非お立ち寄りください。

生活行為工夫情報事業について

昨年度は、東京都作業療法学会でのセミナー（生活行為工夫情報を活用しよう！～明日から使える支援技術の紹介～）や地域づくり共創部主催：地域づくり人材育成研修での講義（作業遂行分析評価による課題の焦点化と生活行為工夫情報事業を活用した実践力の強化）をさせていただき、事例の登録啓発のみではなく、集まった事例を活用する試みを実践しました。今年度も、継続して事例の有効活用を検討しており、まずは7月6・7日開催の「こどものための福祉機器展出展時のポスター掲示（子供さんに関する事例を活用したOTアピール）」をとり進めています。登録いただいた事例は、会員同士の情報共有ツールとなるだけでなく、当事者や家族さま、また医療福祉関連職の方へ作業療法士の技（思考と具体的対応策）を大いにアピールできる貴重なデータとなっています。生活行為工夫情報事業の事例を活用してみたい、あるいはこのような活用はできないか等のご意見や協力依頼がありましたら、福祉用具部 金子まで（rjhxq595@yahoo.co.jp）お知らせください。

How to 自動車運転支援？ ～自動車運転支援チームの立ち上げ／施設間の連携～

自動車運転と移動支援対策委員会 山内 勇祐

3月30日（土）に東京都リハビリテーション病院にて「How to 自動車運転支援？ ～自動車運転支援チームの立ち上げ／施設間の連携～」と題して、脳卒中後の自動車運転再開支援について興味があり、実際に活動している、またはこれから活動を開始したい方を対象に研修会を行いました。

当日は、14名の方に参加いただき、お互いの悩みの共有や今後どのようにして東京都内での脳卒中後の自動車運転再開支援の輪を広げていくかについてなど、たくさんの意見交換を行いました。

第1部では、実際に立ち上げを行った施設の方より、立ち上げ方や立ち上げ後の活動、課題について発表していただき、施設内でどのように自動車運転再開支援を行っていけばいいのか、実際に立ち上げてみたがうまく事業が進まないなど、各施設で困っていることを、グループディスカッションで議論・共有しました。

第2部では、施設間連携について回復期での活動状況、急性期に行ってほしいこと、もしくは急性期から外来へ移行するときどちらへどのようにつなぐことができるかについてグループディスカッションを行いながら、合間に班に分かれて東京都リハビリテーション病院のドライビングシミュレーターの見学の機会を持ちました。

参加者からは、実際に支援を行っている施設間もしくはこれから支援を行っていくにあたっての意見交換ができたというフィードバックをいただきました。引き続き都内の自動車運転支援の輪が広がるよう活動していきたいと思えます。

就労支援委員会 2023年度の活動報告、および2024年度の事業計画について

就労支援委員会 齊藤 陽子

昨年度、就労支援委員会では、新たに1名の仲間が加わり、「第19回東京都作業療法学会への参加」や、「就労支援委員会主催の研修会」、更に、「オンライン事例検討会」などを開催しました。参加して頂いた会員の皆様にとって、少しでもお役に立てていれば嬉しいです。

今年度も引き続き、「第20回東京都作業療法学会への参加」や、「就労支援委員会主催の研修会」、「オンライン事例検討会」を開催する予定です。

第20回東京都作業療法学会では、就労継続支援B型事業所に焦点を当てた企画を計画しています。また、就労支援委員会主催の研修会は、5年ぶりに対面での開催を検討しています。

今年度も引き続き、会員の皆様、研修会に参加される皆様と一緒に、就労支援について、学び・情報共有ができる機会をつくっていきたいと考えています。就労支援に携わっている方、ご興味のある方は、是非、ご参加頂ければ幸いです。

都士会の災害リハ支援

～令和6年能登半島地震におけるLスタッフの活動について～

都士会災害対策担当 永吉 隆生

発災時、都士会はOT協会やJRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）と協力して災害リハ支援を行います。災害リハ支援を行うスタッフには様々な種類があり、スタッフになるための要件が設けられています。都士会では発災時にJRATの本部で活動できる都士会員の人材育成として、研修参加を勧めています。本年1月1日に発災した能登半島地震において、Lスタッフとして私が行った石川県での活動をご報告いたします。

表：スタッフの役割と要件

スタッフの名称		役割	スタッフになる要件
JRAT災害支援緊急スタッフ ：JRAT Disaster Emergency Assistance Staff	Eスタッフ	避難所支援活動	・事前の研修履修は不要だが学習していることが臨ましい
JRAT初動対応チーム隊員 ：JRAT Rapid Response Team Staff	Rスタッフ	初動活動サポート	・Rスタッフ養成研修の受講
JRAT 災害支援スタッフ ：JRAT Disaster Assistance Staff	Dスタッフ	避難所支援活動	・BHELP及びPFPAの受講もしくは3日以上の実災害でのEスタッフ経験者 ・JRAT指定のE-ラーニング研修の受講
JRAT ロジスティックスタッフ ：JRAT Logistics Staff	Lスタッフ	本部活動	・REHUGの受講もしくはRスタッフ、日本DMAT隊員・JIMTEF災害医療研修アドバンスコース修了者のいずれか、もしくは3日以上の実災害でのロジスティクス業務経験者

<Lスタッフの活動>

私は発災3週目に、LスタッフとしてJRATの石川本部や県庁での活動を行いました。県庁では、各支援団体のLスタッフが集まり（DMAT、日本赤十字、厚生労働省等）、被災地の情報を共有します。Eスタッフは、避難所で避難者に直接支援を行いますが、Lスタッフは、他団体とJRATとの窓口にもなるため、正確に情報共有ができるよう、クロノロジーに記録を行います（何時に、誰が誰に、どのような指示を出し、決定したか等）。また、各支援所で収集されたニーズや支援内容の情報を日報としてまとめる作業を行います。

実際に活動をして感じたことは、Lスタッフの人手不足です。被災地の状況は日々変化するため（避難所の場所・人数・感染症の問題・ニーズ等）、次に来るLスタッフに情報を共有し、作業の流れを正確に引き継ぐ必要があります。そのためには、Lスタッフが程よい人数で絶え間なく現場に入る必要があります。司令塔またはハシゴ役ともいえるLスタッフの増員を求める声がありました。一方で、今回多くのOTが「災害リハ支援を行いたい」と手あげをしたにも関わらず、家族や職場の事情で活躍できないというお話もありました。このことから今後は若手人材の育成と実動者の拡大や、各職場での災害リハ支援の必要性について理解の拡大が必要ではないかと感じました。

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

野村 哲朗

ブロックの支部である杉並OT連絡会では5月24日（金）に第2回ヨコにつながる会を開催します。今回のテーマは「防災」です。杉並区防災課の方を招き、今、OTが災害時に知っておくべきことをレクチャーして頂きます。また、杉並リハビリテーション病院様の事例紹介を通し災害時に何を行動の柱とするか、平時から準備出来ることは何かを学ぶ機会となっています。今回もヨコにつながるよう座談会もあります！参加資格は興味のある方です。是非、新人の方にもお気軽に参加して頂きたいです。お申込み等、詳細は都士会HP、FAX通信、SNS、記載QRコードをご覧ください。よろしくお祈りします。



ブロック活動への参加者も大募集中です！お問い合わせはメールまでお願いします
seibuseinanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック

清水 隆志

現在ブロックでは、2024年7月14日に開催されます「第20回東京都作業療法士学会」の運営を進めております。テーマは『Occupation based』を掲げまして、シンポジウムや特別・教育講演・演題募集に加えてポスターなど企画し、現地とアーカイブ配信にて開催を予定しております。あと2ヶ月程ですが、皆様にお会いできるのを楽しみにして頑張っていきたいと思っております。

第20回東京都作業療法学会のHPは下記QRコードをご確認ください。また、Facebook等のSNSでも情報を発信していきますので、是非「フォロー」「いいね！」を宜しくお願いします。

◇第20回東京都作業療法学会◇

会 期：2024年7月14日（日）

会 場：帝京平成大学

学 会 長：松澤良平

実行委員長：山下高介

テ ー マ：『Occupation based』

作業に根ざした実践の魅力を発信できるように、企画運営していきたいと思っております



区東部・東北部ブロック

高谷 昌史

区東部東北部ブロックでは、今年に入り2件の研修会を実施しました。1月に開催した、「生活を豊かにする『多職種連携』の秘訣」では、作業療法士が抱える多職種連携での悩みについて、講義と各領域の代表者によるシンポジウム形式で実施しました。多方面で関わる作業療法士がそれぞれ領域の特性に沿った工夫を共有することは、皆様の多職種連携への考え方を一層深める機会にできたと思っております。

また、2月には現職者基礎研修の1つであるMTDLP基礎研修を実施しました。1日を通してのリモート研修でありましたが、研修後アンケートでは「今後MTDLPを実践したいと思う」に対して90%以上の方からポジティブな回答をいただきました。反面、臨床実践に用いる際の不安や、研修に対する意見も挙がっており、

今後の研修への反省につながる良いフィードバックをいただけたと感じております。2024年度も引き続き、都士会員の皆様の研鑽・発展への一助となるよう見聞を広めていきたいと思っております。

ブロック活動に興味がある方は（経験年数問わず）下記までご連絡お待ちしております。よろしくお願ひします。

連絡先：区東部・東北部ブロック メールアドレス：tokyo.ot2018@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

森田 将健

当ブロックでは前回の都学会開催に向け、新たなブロック委員が加わったのですが、新たなメンバーとの協力体制を都学会準備で培うことができました。また都学会を通じて、やりたかったけどできなかったことや、都学会でやることではないけど、ブロック活動なら企画できそうなこと、地域としての特徴と課題など、都学会後の会議でも今後の活動案がいろいろと出されました。会議中もまじめなだけでなく、冗談を言い合いながらできるような雰囲気になっているのも一つの事を皆で成し遂げたことによる良い影響だと考えています。しかしながら、依然として港区、品川区のブロック委員が少ないのが現状です。当ブロックでいろいろと企画してみたい方、近隣の病院と連携を取り、顔の見える関係を築きたい方など、ぜひ一緒に活動してみませんか？また、ご意見、ご要望のある方も是非ご連絡ください。お待ちしております。

連絡先 → ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

原田 祐輔

2024年度の北多摩ブロック活動は、①広報活動を積極的に行なう（SNSの活用を検討）、②ブロック内連携を強化する（ブロック内の作業療法士がアクセスしやすい連携ツールの活用を検討）、③ブロック委員の増員、に重点を置いて取り組んでいきたいと思っています。また、これまでと同様に年2回の勉強会と年4回の座談会を通して、ブロックの皆さまと交流を図らせていただく予定です。今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

*ブロック活動に興味のある方は、気兼ねなくご連絡ください。ot.kitatama@gmail.com

西多摩・南多摩ブロック

米山 貴紘

新入職された皆様。入職おめでとうございます！まだまだ緊張が抜けないとは思いますが焦らずに楽しみながら慣れていきましょうね！そして2年目の皆様は初めての後輩が入職してきてドキドキとワクワクが入り乱れてるのではないのでしょうか？気負いせず今できることを一つずつこなすことが大切ですよ！当ブロックでは7月と10月にオリジナルの研修会や今年度中にMTDLP事例検討会等の企画を立案中です。詳細が決まりましたら都士会ニュースやSNSで随時発信していきますのでご確認お願ひ致します！西・南多摩ブロックは若手、中堅、ベテランスタッフがアットホームな雰囲気で活動しています。企画運営をしてみたい、ブロック活動にご興味ある方は是非お問い合わせください！一緒にブロック、作業療法を盛り上げていきましょう！！

ブロックメンバー大募集！ご興味ある方はご連絡下さい ⇒ swtamaot@gmail.com

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

OTO号外発行のお知らせ

e-スポーツ特集のこぼれ話～本当はこぼしたくなかった話～

東京都作業療法士会 広報部 野村 哲朗

OTO第6号「作業療法とe-スポーツ」が発行され数か月が経ちました。刊行に際しては多くの方からご協力を頂きました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

昨年の春先、OTO第6号の企画会議でe-スポーツと作業療法の関わりをテーマにすることに決定しました。しかし広報部内ではe-スポーツに馴染みのある部員は少数でした。きっとe-スポーツと関わりたいけど、どう関われるのか、どのように導入したらよいのかなど同じように悩むOTも多いのでは？というところからスタートしました。

私たちはe-スポーツに精通されている北海道医療センターの田中栄一先生に依頼し、企画へのアドバイスなどのご協力頂ける機会を頂きました。

田中先生からはe-スポーツの歴史、概要、どのような支援をされているか、今私たちが出来る事までお話しただけでした。改めて作業療法とは何かと深く考え、また、人と作業を繋げることができる仕事って素敵だな！と感動も味わう機会にもなりました。しかしページ数も限られており先生から学ばせて頂いた全ては掲載できませんでした。今回、こぼれ（本当はこぼしたくない！）話としてOTO号外として田中先生のお言葉からの学びを都士会ホームページにアップロードさせて頂きました。是非、ご覧ください！

編集後記

新年度第一号なので田中会長に巻頭言をお願いしました。また、生涯教育制度に関して毎年恒例ですが、教育部にお願いをしました。7月の学会に向けて準備も進んでいると思います。内容が盛りだくさんで今から楽しみです。

広報部部长 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL : 03-6380-4681 FAX : 03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。